

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

地を舐める如くに舞し初神楽

岡本とも子

(評)神楽は神を祀るために神前に奏する舞楽。歌をうたい楽器を奏して行う、里神楽であろう。田舎者の下男どんつくの手踊を中心に、芸者、白酒売りなども踊る、通称「どんつく」といわれている。

「地を舐める如くに舞う」という表現は踊り一筋に、随分長い間つとめ、年季のはいった結果得た技能であろう。情景のよくわかる句である。

図らずも孫より受けるお年玉

川村 博子

(評)「孫は目の中に入れても痛くない」という俚言があるが、全く予期しなかった新年のお年玉「こりゃ…全く反対じゃが…お年玉というものは、年長からいただくものとはばかり思うちよつたに、孫よりお

年玉を貰うとは、…今年はキットいい年になるだろう」…祖父と祖母、屈託のない明るい笑顔を彷彿させる。

妻逝きて寒さのつる年の暮

森岡 照月

(評)最愛の妻を亡くした、いつわりのない感情が「寒さ」という言葉で表現されている。同情はできても、実感として受け止められるのは、本人でなければわからないであろう。少なくともこの句には虚構の隙はない。「年の暮」と言い止めた作者の沈黙のリアリチイは痛切。

竹樋に流れて清し寒の水

広瀬うき子

(評)竹の樋でとる谷川の水、最近では山村でも行政機関の指導のもとに、生活用水の確保には、労力的、経済的な援助が地方行政の中で計画、実行されており、竹樋を利用して用水を家庭に引き込むような方法は、ごく稀であるが人口戸数の少ない集落では樋の水に頼ることもある。冬季の竹樋の水は、まがいなく寒の水。

大勢の孤独な祈り初詣

大川 節弥

浮御堂影をおとして鴨の陣

友草 水月

寒詣昭和を偲ぶ百度石

刈谷 志津

寒鴉去年の声を田に落とす

間 浩太

初春や張り子の虎の髭震ふ

津田 久美

土佐和紙の虎が天向くおらが春

井上 郁子

ひたすらに娘らをもてなす三ヶ日

竹崎 光子

読みかえす一言添えし年賀状

片岡 包女

従兄弟逝く七草粥も間に合わず

筒井 正子

探梅や梢にかかる昼の月

中野 好子

賀の一字寅の威を借る賀状くる

伊藤 萩甫

水仙の姿に我も身を正す

竹崎たかひろ

極月や時計は刻を打ち尽す

松尾満津於

次 題 「当季雑詠」

締め切り 毎月第2土曜日

投句先

いの町教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

今月の子ども川柳

いとん家 みんなで楽しく遊んだよ

枝川小5年 池澤 菜津

友達が増えたらいいな 三学期

枝川小5年 伊東 花恵

三学期 成績上げるぞ がんばるぞ

枝川小5年 氏原 実紅

ふれあいデー 地域の人たち 楽しみだ

下八川小3年 筒井 美空

木の葉さん 秋と冬には 服ぬぎよ

下八川小3年 筒井みなみ

冬の朝 寒くて寒くて 起きられない

下八川小3年 柳瀬 奨

※広報に掲載された入選作品は漣川柳会の皆さんのご厚意により同人誌「川柳帆傘」にジュニア川柳として掲載していただいています。

※「子ども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。たくさんのご応募をお待ちしています。(応募は学校を通じてお願いします。)